



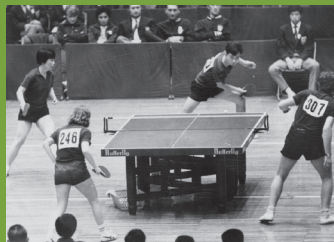
写真提供：(NPO)愛知県日本中国友好協会  
北京にて中国参加の交渉時、  
周恩来首相と握手する  
後藤鉦二日本卓球協会会長



写真提供：共同通信社  
荘則棟選手と  
グレン・コーワン選手



写真提供：中日新聞社  
第31回世界卓球選手権大会  
開会式



写真提供：中日新聞社  
混合ダブルス決勝 中国が優勝



写真提供：中日新聞社  
女子団体決勝 日本-中国



写真提供：中日新聞社  
羽田空港から中国に向かう  
米国選手団



写真提供：共同通信社  
ニクソン大統領と毛沢東国家主席



写真提供：共同通信社  
田中角栄首相と周恩来首相



最寄り駅/名古屋市営地下鉄名城線「市役所」駅 7番出口より 徒歩5分

### 愛知県体育館

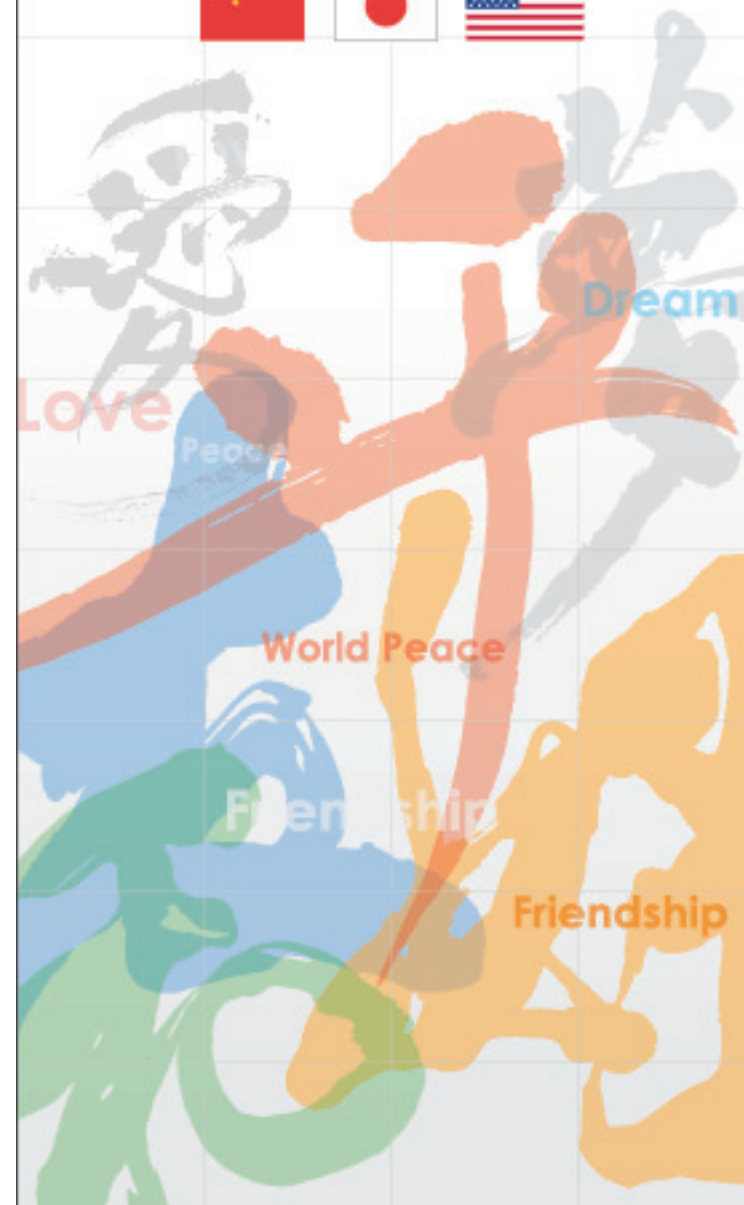
〒460-0032 愛知県名古屋市中区二の丸1-1  
<http://www.aichi-kentai.com/>



〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2  
<http://www.pref.aichi.jp/>

# ピンポン外交 記念モニュメント

乒乓外交記念壇  
Ping-Pong Diplomacy Monument





愛知県知事  
大村秀孝

愛知県体育館は、1964年10月に開館し、これまでの50年間、数多くの歴史的なスポーツや文化イベントの舞台として、愛知・名古屋のスポーツ・文化振興に大きな役割を果たしてきました。

その歴史を振り返る中でも、1971年3月28日から4月7日に開催された「第31回世界卓球選手権大会」は、日本、米国を含む世界54カ国が参加し、特に、6年ぶりに中国選手団の参加が実現したという大きな意義を持つ大会でした。

この大会において生まれた米中選手団の交流をきっかけとして、大会終了直後には、米国卓球チームの訪中が実現しました。こうした一連の卓球を舞台とした交流は、1972年のニクソン大統領訪中、1979年の米中国交樹立へとつながるとともに、1972年には田中角栄首相が訪中し、日中の国交正常化に至りました。

そのため、この大会は、単なる国際的スポーツ大会の枠を超え、日米中の外交史において「ピンポン外交」として特別な意味を持つものとなり、「小さなボールが大きなボール(地球)を動かす」と称賛され、今も多くの人々の記憶に残っています。

この大会に中国選手団の参加を実現させ、日米中友好という歴史の扉を開く偉業を成し遂げた関係者の皆様に敬意を表するとともに、愛知・名古屋が劇的な歴史の転換点の舞台となったことを誇りに思います。

ここに、愛知県体育館で始まった「ピンポン外交」の歴史的な意義を改めて顕彰するとともに、これを将来の世代に引き継ぎ、さらには日本、米国、中国始め世界中の国々の友好と平和を今こそ心から願うものであります。

## ピンポン外交記念モニュメント



### ●デザインのコンセプト

日本・中国の伝統美である水墨画のイメージにより全体が構成され、「平和」「友好」「愛」「夢」の文字は、日本と中国の現代書道家が揮毫し、この記念モニュメントが「未来の友好平和の礎」になってほしいという願いが込められています。

国旗をモチーフとしたピンポン球が空に軽やかに弾む様子は、多国間の対話が表現されており、左右のプレートには、世界の友好平和を願う大村秀孝愛知県知事のメッセージとともに、ピンポン外交の解説、関連する写真、年表を掲載しています。